

JOMF 派遣医師便り (2013. 3)  
◆シンガポール◆  
シンガポール日本人会クリニック

シンガポール日本人会クリニック

日暮 浩実

正確なところはわかりませんが、現在の在星日本人の数は、在留届数よりも多く、一説には3万5千人とも言われております。この情報が正しければここ10年余りで1万人近く(30%以上)増えたこととなります。正確な数はともかく、日本人の数が増えていることは確かです。

こうした中、シンガポールの日系のクリニックは徐々に増え、現在は6団体となり、分院を含めると日系クリニックは10箇所となっています。現在、シンガポールで免許を得て臨床に携わっている日本人医師数は30人となりました。

こうした状況の中、半公営的な立場の日本人会クリニックは、先の2009H1N1インフルエンザの時の例に見られるように、日本大使館とも連携をとり、今まで以上に、皆様のニーズにこたえるべく努力をしていくつもりです。どうぞよろしくお願い申し上げます。

クリニックは昨年から新しいスタッフを迎えています。

昨年10月から、ヘルスアドバイザーとして、日本で心理療法士の資格をもつスタッフを迎え、心理カウンセリングを行っております。薬物治療のみならず、カウンセリングを取り入れることにより、昨今ますます問題が顕在化しつつあるメンタル面のサポートに貢献させていただければと考えています。

さらに、日本の言語聴覚士の資格をもつヘルスアドバイザーのもと、言語教室を開き、成長発達段階での言語の習得に困難を感じているお子様のお手伝いが少しでもできればと思い活動しております。

そして、この3月7日には、第一回母子健康相談(ぴよぴよ相談)を開始いたしました。当クリニックの活動の一つとして、日本人会メディカルスタッフの会のメンバー(メンバーは日本での様々な医療資格をもっています)が当院のヘルスアドバイザーとして、小さなお子様を持つお母様方の援助をして参ります。最初は月1回のミニレクチャーおよび相談会ですが、将来的には、日本の母子健康センターのような役割を果たしていくことが目標です。どうぞご要望、ご相談を頂けましたら幸いです。

**子供たちの世界にヒント～多様な人種の混在の中で**

実際、日本人だけでなく、シンガポール国の居住人口は毎年10万人以上増えています。2005年には420万人弱でしたが最近の統計では530万人を越えています。中でも外国人の比率が増え、現在は40%に近くになったこの国は、コスモポリタニズムの先端を行っているといってもよいかもしれませ

ん。しかし、多くの人種はいるものの、やはりここもお互いが融合した“人種のるつぼ”ではなく、それぞれが独立して混在している“人種のサラダボール”という形容のほうが正しいように感じます。

ただ、融合している社会もあります。それは幼児たちの世界です。インターナショナル幼稚園等では様々な国籍の子が、分け隔てなく、遊んでいます。しかし、その親は言語や習慣の違いからかどうしても、国ごとに分かれがちです。折角、幼児たちの間には、国境はないのに、大人が境を作ってしまうように感じます。しかしながら、ここに世界の人々が友人となり、世界から争いをなくすためのヒントがあるようには感じます。。。

この国際的な都市が今後、どのような道を歩んでいくかはわかりませんが、日本人会クリニックはこの地で心身両面から皆様のお役に少しでも立つべく活動してまいります。

今後ともどうぞよろしくお願い申し上げます。